髙柳記念奨励賞

土井　利忠氏（ソニー株式会社　執行役員上席常務）

自律型ロボット“AIBO”の開発と商品化

ソニーでは、これまでにコンパクト・ディスクをはじめとして家庭用VTRの開発など多くの技術革新を達成してきているが、AIBOの開発と商品化には、技術的にも市場的にもまったくお手本のない状態の中から研究に着目し開発に成功した、その独創性を高く評価したい。

土井氏が最初にエンターテインメントロボットの研究着手したのは1993年の10月頃で、翌年４月より正式にプロジェクトをスタートをさせ、その後何台かの試作を重ねて1999年６月にAIBOの発表となる。

特色として

(1)　人工知能を全面的に応用し、まったく自律的に行動する。

(2)　時間とともに行動が変化する成長モデルをつくり幼児期、少年期、青年期、成年期などの夫々の時期に応じて多彩な行動パターンが発生する。育て方により性格が変化するしくみをつくり「育てる」ということに楽しみを見出すようにした。

(3)　あらゆる形式のロボットに共通なプラットフォーム、アーキテクチャー「OPEN-R」を開発、これにより多くのソフトウェア・モジュール、一部のハードウエアが異なるロボット間で共通に利用できる。

土井氏の独創性から生れたAIBOは次に2000年11月ヒューマノイド（二足歩行）ロボット「SDR-3X」の開発となり広くロボット産業発展の基礎を築いた。